

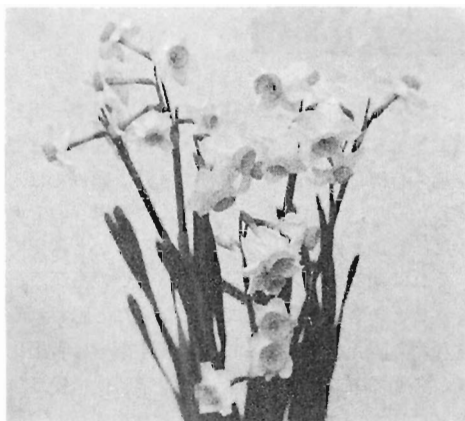
大阪薬科大学広報委員会



スイセン

淡路島の由良から峠を越して南に下ると、紀伊水道の明るい海洋風景がひらける。この附近一帯が灘の水仙郷である。北に山を背おい、南は黒潮の海と気象条件に恵まれている。スイセンが多いのは黒岩地区で、海岸の急斜面に野生のものが群落をなしている。

ヒガンバナ科のスイセン属植物は約30種で、原産地はカナリア諸島からスペイン、南フランス、イスラエル、シリアなどとされ、クチベニズイセン *Narcissus poeticus* は現在、スペイン、ギリシアなど広範囲に自生する。純白の花被片の中央についている皿状の副花冠は紅色の縁どりがあって可愛いらしい。これは晩咲で他のスイセンにおくれて開花する。ラッパズイセン *N. pseudo-narcissus* は古くから人々がクチベニズイセンとフサザキズイセン *N. tazetta* をスイセンとしていたので、これ



を偽りのスイセンとして学名を与えたという。イギリス、フランスに移入し、自生している。3~4月に大型の黄色花を一葉に一個つける。ニホンズイセン *N. tazetta* (*N. tazetta* var. *chinensis*) はフサザキズイセンが地中海沿岸の原産地とされている地域から中国に伝播したもので、唐代にはすでに将来されていたとする。フサザキズイセンの変種で、中国で水仙、金盞銀台の名がある。華南の沿岸地方に繁殖したものが海流によって我国に運ばれたのであろうか。平安時代には雪月花とよばれ、絵画などにあつかわれていたとする。淡路島、越前海岸、南房総など、日本列島各地の野生種はこの種である。純白の花被片に黄色の副花冠をつけた花が一葉に5~8個、1月から2月中旬にかけて開く。その他約20種が我国でもみられるようになった。1954年のイギリス王立園芸協会に登録された園芸品種は11,333種で、以後追加された品種を含めるとかなりの数になっているはずである。

民間薬としては鱗茎を熱湯で茹で、薄片を陽乾し、煎服して解熱に用いるほか、新鮮な鱗茎を搗き潰して生汁をしぼり、耳下腺炎、肩こり、乳房に貼布して効ありとする。また、近年の実験では、鱗茎中に含有する *lycoperine*, *tazettine*, *homolycorine*, *galanthamine* など数種のアルカロイドはモルモットなどの摘出子嚢に対して興奮作用を、多量では強直性の収縮作用を示すこと、さらにラットの Jensen 肉腫、マウスの Crocker 肉腫、および Ehrlich 腹水癌に明らかな治療効果がみられたという。

(太田長世)





生きる喜び

学長 藤田 榮一

私が本大阪薬科大学に着任してから、早や一年と一ヶ月が過ぎようとしている。私は本学に就任するまでの半生を専ら有機化学の研究に捧げてきた。顧みてほんとうに楽しかった、幸福であったとつくづく思うのである。何故だろうか、何が楽しかったのだろうかと考えてみると、それは知ることの喜び、考えることの喜び、そしてつくることの喜びを味わってきたからだと思われる。

すなわち研究をすすめるために先ず第一に有機化学の知識が必要である。そのためには大学時代に受けた講義をもとにして、さらに深い知識をとりこまねばならない。新しい教科書、参考書、専門書や新しい学術雑誌に掲載されている化学論文を読むことにより、未知の事柄が次々と目につき、全く新鮮な知見が新知識として脳の中に貯えられる。そのさい自分の知らなかった新事実をはじめて知るわけで、新しい知識の獲得に喜びを感じる。これがいわゆる第一段階で、勉強の段階である。このような勉強が重なると知識はより広くより深くなる。

第一段階で得られ貯えられた知識を基礎とし、次は考えるという第二段階がやってくる。人間は考える輩であるとパスカルが言っているが、事実考えることのできるものは人類の特権であり、創造をめざして考えることはまさに喜びである。今までに得られた知識をもとに何をどのように実行すればよいかを、あらゆる角度から思考する。そして自分の最善と考える方法のデザインができる。

次は実行の段階である。自ら計画した方法を実施に移す。これが化学実験である。これは簡単に目的通り進行して成功するというわけには中々いかないが、それにもかかわらず未知の世界にチャレンジするわくわくしたときめきを体験する過程である。学問研究に携わる人は、どんな分野であってもこれに類似の喜びを味わうことであろうと信じる。幸いにして目指す目的を達成することができた場合、その喜びは非常に大きく、新たな研究意欲をかきたててくれる。また実験が期待通り進まない場合——これがほとんどの場合普通であるが——でも、実験中の観察あるいは実験結果の分析からしばしば新しい知見を得ることができる。このような不成功から予期しなかった新しい芽が生れそれが大きく別の領域の研究に発

展することも多い。実験がうまくいかなかった時の失望は場合によっては非常に深刻なこともあり得るが、たいていの場合、そのような不成功から得られる知見こそあとの研究に大いにプラスになることの方が多きように思われる。「失敗は成功のもと」となることが実際の体験である。これこそ創造の喜びである。

さて研究結果がいろいろと出てくると、これをまとめて学界に発表するステップが必要になる。学術論文の作製には研究者の考えと実験結果をいかに正確に、しかも簡潔に報告するかに最大の努力が払われねばならない。しばしば生みの苦しみをともなうことがあるにしろ、本質的には創造的、建設的な行動に関連しており、でき上った論文を学術誌に投稿して採択される時には、誠に大きな喜びを味わうことができる。

本学で学ぶ学生諸君に是非このような喜びを体験してほしいと望みたい。上述の喜びは何も学問研究だけに限られてはいない。広く人が一生を送るときにも共通していえることであろう。未知の分野の新しい知識を得ることは、誰にも極めて純粋の喜びをもたらす。遭遇するいろいろの困難な問題の解決にあたって悩み苦しむことは、人間の一生においてしばしば起こることである。広い知識と豊富な経験が問題解決に役立つであろうけれども、知識がいくら深くてもこれを基礎とした熟慮がなければそれを活用することができない。問題を十分に分析し、深く考慮した後、冷静な判断のもとに公正な判断が下されなければならない。その結果難問が解決されるならば、これにまさる喜びはなく、たとえ全面解決に至らなくても少しでも解決のきざしが見えるようになれば幸である。何故ならば努力をつみ重ねることにより最終的には解決をみるに至るにちがいないからである。

私は「知ること、考えること、つくることは純粋の喜びであるが、これは単に学問研究の上での喜びであるのみならず、さらに一般に人生の喜びに通ずる。」と述べてきた。これらの行為を誠意、努力、勇気をバックボーンとして積極的に推進して、自分の人生をより楽しくより有意義に、そしてより充実したものにしたいものと思っている。
(1986年4月29日記)

就職部長として一言

就職部長 森坂勝昭

二年間、就職部長を担当することになり、その責任の重いことを痛感している。昨今の医療制度の見直しに伴って、製薬企業や病院において人員の整備が行われている状況下で、薬系大学卒に対する就職の見通しは今後も明るいものではないと予想される。新設校からの卒業生も加わってくることもあって、一層厳しいものとなると想像する。

本年卒の就職概要は下表の数値で示されているが、個人個人の就職先の一覧表に目を通すと、前就職部担当者らの御努力に改めて敬意を表する次第である。新4回生は300名を越す人員であるために、果して来年卒業時によい結果が得られるかどうか、まことに心もとないが、出来るだけ努力するつもりなので、新4回生を含めて各位の御協力をお願いしたい。

報道で知られているように、又先刻、文部省からの通達で本年は企業と学生と接触開始日が8月20日と、昨年より繰り上げられるなど、あわただしい感があるが、実質的には大きな変化でもないと考え。しかしながら薬系大学の学生は他系大学に比べてのんきに構えている人が多いように思うので、やはり自覚して就職に臨んでほしい。

ここで鹿爪らしいことを述べるつもりはないが、一言私見めいたことを述べてみたい。薬剤師というライセンスがあるためか、薬系大学の場合、就職に対する観念が甘くなり勝ちで、就職分野の選択が安易で、就職しても仕事がかまうかかなかったら簡単に転職してしまう人が多く、就職に際して背水の陣の如き構えで臨む他系大学にみられるような真剣さが不足しているように思う。

男子の企業就職において、営業担当を嫌う傾向が年々強くなっているようで、営業が嫌だから研究を希望するという何か短絡的な発想があるようにも見受け。製薬企業では研究、開発の仕事も勿論重要であるが、営業の仕事はやはりそれ以上に重要さがあると私は思う。営業の仕事は確かに薬とはいえないが、学閥偏重の如きものはなく、全く本人のやる気の実力本位であるといえよう。研究分野の仕事は本来望ましい仕事かも知れないが、今なお学閥偏重もあり、余程の実績と幸運に恵まれぬ限り、仲々下積みから脱せられない可能性が大である。勿論、早くから志して大学院進学後、研究や開発部門に就職する希望者に水を差すつもりではない。それに

企業を選ぶ場合もそうであるし、又営業を嫌う理由の一つかも知れぬが、就職場所へ自宅通勤したい、親元を離れたくないという、マザコン的ひ弱な男子が多い。もっと男子諸君逞しくなってほしい。面接でもその辺のところで大いに評価されるのではなかろうか。

女子の場合、男女雇用機会均等法が制定され、一見、女子の就職が改善されたように思えるが、現実面ではむしろ就職窓口が狭くなったようにも感じられる。例えば病院薬剤部においてでも、これまで女子に免除されていた宿直が義務づけられるなど仕事も厳しくなるし、従って病院側も将来の態勢を考えて女子から男子採用に切り換える傾向にあると聞く。企業においても内部人員の整備の必要性から女子の腰掛けの就職を抑える傾向にあることは確かである。噂かも知れないが、大阪薬大卒の女子はいい企業や病院に就職できるとか、大阪薬大卒の女子はプライドが高いとか、しかしそんな贅沢はもういっていらぬ時代になりつつある。薬剤師の職種は多岐に亘るので、思い切った分野に進出してほしい。例えば女子営業担当が出てきても不思議でないと思う。とにかく女子は男子以上に厳しい気持ちで就職を考えてもらいたい。但し、女子としての特徴を失わぬことは勿論だが……。

終りに一言、折角、就職が内定していても、卒業延期になったり、卒業しても国試が通らぬようでは就職は御破算となる。近頃は病院や企業も国試合格が就職の前提条件となっているところがほとんどになった。最低必要な勉強は怠らぬよう望みたい。

昭和61年3月卒業生進路一覧表

(3月20日現在)

進路	男子	女子	計	%
会社(営業・管理薬剤師)	27	23	50	20.2
会社(開発・生産・研究)	13	29	42	16.9
病院(薬局・臨床)	7	37	44	17.7
卸・薬局	7	13	20	8.1
公務員	8	1	9	3.6
大学職員		13	13	5.3
病院研修生	7	15	22	8.9
進学(大学院・その他)	21	1	22	8.9
自家業	3	1	4	1.6
卒業後考える	1	6	7	2.8
就職不希望	3	4	7	2.8
未定(受験中・考慮中)	2	6	8	3.2
計	99	149	248	100

卒業生数 男子 99名 女子 149名
就職希望者数 男子 65名 女子 128名

新 入 生 を

新入生諸君御入学おめでとう。小学校から大学までの長い受験戦争に耐え、今はほっとしていることと思います。これからの4年間は諸君の一生の進路のだいたいの方向が決まる重要な時期です。同時にその様な重要な4年間の過程を自分一人で将来の進路を見極められるだろうかと不安を抱くこともあると思います。しかしその心配はいりません。その時には遠慮なく先生方に自由に相談して下さい。学生一人一人の才能をもっともよく発揮できるように指導致します。つねに前途に希望を持って学内に、はたまた健康維持のためにスポーツにはげまれるよう希望致します。

さて現在薬学と云う科学と薬剤師としての職能とは必ずしも一致しておりません。薬剤師としての水準を上げるためには卒後教育でいくら努力しても今の多様化の時代に対応しきれません。薬剤師になる以前の教育水準を上げることが先決であると思います。従来物質志向の薬学における教育から、広い視野の教育を行うことが要求される時代になりました。少なくとも薬に関係のある臨床医学の現場を身をもって体験することもその一つでしょう。

医師、歯科医師に比較すると薬剤師の職域は薬剤師業務に限らないで、非常に幅が広いことはたしかである。

医薬品工業から化学工業に至るまで広がっています。しかしどんなに職種が多様化されてもその教育は一つであること、即ち基礎薬学の教育は職能教育の前段階において欠くべからざるものであります。

本学のカリキュラムはこの様な点を考慮し卒業までに135単位以上取得することが必須要件となっています(詳細は学生便覧、教授要目を参照されたし)。なお、薬学科、製薬学科の二学科制ですが、薬剤師国家試験、就職試験の受験にはどちらの学科に所属していても問題はありません。関連性のある主要専門科目はいずれの学科においても共通の必修科目となっており、薬学科、製薬学科いずれに所属していても卒業後の進路には全く不安はありません。

最後に、新入生諸君我々の薬業界ではめまぐるしい技術の進歩や需要の多様化に対応できる人間が求められています。そのためには学生時代に専門的な知識、技術、豊かな人間性をそなえるための学習、努力がこれまで以上に要求されることを十分肝に銘じて頑張ってください。

----- 教務課だより -----

新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。厳しい受験戦争も終りほっとしていることと思いますが、気持ちを新たにして早く大学に馴れて頂きたいと思えます。これまでと違い大学の講義は出席も取らないし、強制もないので自分から学ぶことが大切です。ガイダンスでも話に出ましたが、昭和60年度の留年生は1回生18名、2回生11名、3回生20名、4回生15名もありました。諸君はこの中に入らない様健康に留意し、自分の目的に向って規則正しい学生生活を送られることを切望します。

修学するに当り先に配布した、学生便覧、教授要目をまず読んで下さい。そして授業科目、卒業までの単位修得方法、休学、定期試験、再試験、進級等に関しては学則、学科規程を良く理解し、又学内試験に関する注意事項、学生実習に関する注意事項、台風および交通機関ストの場合の授業についてもよく知っておいて下さい。

次に正門横、教務課前、西館2階の掲示板を日に1回は必ず目を通して下さい。教務課からの各種連絡事項は

すべて掲示板で行いますので間違いのない様に願います。特に各種届、あるいは申し出の期限には注意し、期限を必ず守って頂く様をお願いしておきます。

教務課の業務としては選択科目履修届、選択科目受験届、欠席届、試験欠席届、休学届、薬剤師国家試験、臨床検査技師国家試験受験等に関する諸手続、又成績証明書、卒業証明書発行など在学习中はもとより、卒業後も諸君のお世話をします。その他修学上の問題で疑問があれば、どんな事でも結構ですから気軽にご相談下さい。

4 年次生特別実習について

新課程による特別実習は、①応用薬学実習コース(学内・学外)②医療薬学実習コース、③臨床検査実習コース、の中からいずれかを選択することになった。従来カリキュラム外で実施していた臨床検査病院実習は廃止とし、又短期病院研修については大学としては実施せず、個人的に希望があれば依頼状を発行することになった。

迎 え て

学生部長 太田長世

本学は薬学の教育、研究とともに学生の人格を陶冶する場でもあります。近年、我国の大学では学生数の増加と社会情勢の複雑化等から、学生は学問に対して価値判断と意欲を失い、さらには学生生活に魅力を持ちえなくなり、なにごとに対しても無関心、無責任を装うものが増加していると言われていました。本学においても一部にこの傾向なしとしますが、全体としては正課の教育と課外活動によって、学問にとりくむ情熱と積極的な行動を展開しようとする気風が培われてきたことは全学を挙げてのよろこびであります。

本学が課す正課は薬学人をめざす諸君にとって極めて大切なものであることは言うまでもありませんが、この正課のみではえられない重要なものが案外多いのであります。学生が課外にテーマをえらび、目的に向かってつき進んでゆくことによって、種々の経験をえて自己の指導性、創造性を養い、多くの交友関係を通して人間形成に資することになります。しかし、この課外活動も熱中するの余りに正課を犠牲にしたのでは学生の本分を逸脱することになりかねない。充分心すべきことでありま

す。私共は諸君らがよりよい学問を習得できるように、加えて諸君らの課外における活躍がより素晴らしい成果を生むことを期待し、協力を惜しむものではありません。

また、新入生諸君には入学時から現在まで、若干の時間が経過して、多少は本学の様子にも慣れてこられたことと思います。入試準備の負担から日を追って解放され、顔色もよくなってきたとみうけられる反面、大学生活に不安をもつもの、大学で何をすればよいのか、方向のわからないもの、進んで友人と交わらない学生、身体が不調がちな学生、急激な生活環境の変化にとまどい、不安と悩みが表面に出てくるこの頃でもあります。身心の健康管理は自己の責任であることは当然であります。自分だけの健康管理にも限度がありますので、我々教職員と学生との親密な対話によって健康問題を考えてゆきたいと思い、協力を願う次第です。



4月9日(水)昭和61年度学部ならびに大学院入学式(学部入学生236名,大学院入学生10名)が挙行された。

学生課だより

新入生の皆さん入学おめでとうございます。学生課は学生証、在学証明書、学割等各種証明書の発行・日本育英会他奨学生の募集・教室、グラウンド等大学施設の使用申し込み・課外活動に関する諸届・定期健康診断、レントゲン検診の実施・下宿、アルバイト紹介・学内での事故、傷害の処理・就職の斡旋と入学から卒業まで皆さんの学生生活全般に及ぶ事務を担当しています。もし不明な点があればいつでも気軽に相談にきて下さい。以下特に注意してほしい事項につき要望しておきます。

1. 学生証は大切に

学生証は本学学生である証明ですから常時携帯し、忘れたり紛失しないよう注意して下さい。学生証は学割、在学証明書等の交付申請時、試験の受験時に提示が必要です。

2. 自転車、バイクは指定の置場へ

自転車、バイク共それぞれ所定の専用置場へ整頓のう

え駐車し、大学周辺の路地等へ不法駐車は絶対しないようお願いします。尚バイク通学者は必ずヘルメットを着用のこと、自動車通学は原則として禁止しています。

3. 身上異動は速やかに届け出を

住所、下宿、電話番号、保証人等個人身上に異動が発生した場合は必ず直ちに届を提出して下さい。

4. 健康保険証写しの寄託を

講義、実習、体育実技、課外活動、対外試合中などでケガや事故を起こした場合、病院初診料は大学(課外活動時は父兄会)が負担し、正課中は4日以上、課外活動中は14日以上の治療を要した場合は傷害保険金が出ますので直ちに届け出て下さい。尚医療費支払時、健康保険証の写しを提示すると、相当の医療費負担の軽減になりますので、必ず保険証の写しを学生課まで寄託して下さい。

昭和61年度予算の概要について

去る3月24日の理事会及び評議員会において、昭和61年度の予算が決定されましたので、従来例にならい、消費収支予算書の総括表によりまして、その概要を説明します。

なお、消費収支予算書とは、学校法人の財政について、その年度における経常的な収入と支出との均衡をみるためのものです。

〔消費収入の部〕

1. 学生納付金……授業料・入学金を内容とするもので、本年度においては、昨年入学生から授業料を増額したこと等により、前年度比6278万円増の11億5405万円を計上。
2. 手数料……入学検定料・証明手数料等を内容とするもので、本年の受験生から入学検定料を増額したこと等により、前年度比1208万円の増を計上。
3. 補助金……国からの経常費補助金を主な内容とするもので、この補助金に関する本年度政府予算が昨年度と同額であることにかんがみ、前年度と同額を計上。
4. 資産運用収入……銀行預金等を内容とするので、最近の金利の低下傾向に懸念はありますが、資産の運用

方法等を考慮して、前年比500万円の増を予定。

5. 事業収入……学生寮に関する収入・公開講座に関する収入等を内容とするものであります。
6. 雑収入……私学退職金財団からの交付金その他を内容とするもので、本年度末における退職予定者との関連から、前年度比1230万円の増を計上。

・消費収入の部合計

以上の結果、昭和61年度における帰属収入（学校法人の負債とならない収入）の合計は、前年度比9213万円増の17億3722万円となりますが、基本金組入額を1億9700万円と予定することにより、消費収入の部合計は、前年度比9113万円増の15億4022万円となります。

〔消費支出の部〕

1. 人件費……教職員給与費・教職員退職金等を内容とするもので、本年度においては、定期昇給を推算するとともに、本年度末における退職予定者に対する退職金の増を考慮して、前年度比6265万円増の9億7604万円を計上。
2. 教育研究経費……教育研究用の消耗品費・光熱水費・印刷製本費その他を内容とするもので、本年度にお

昭和61年度消費収支予算書総括表

昭和61年4月1日から
昭和62年3月31日まで

〔消費収入の部〕

(単位円)

〔消費支出の部〕

(単位円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
学生納付金	1,154,050,000	1,091,270,000	62,780,000
手数料	67,450,000	55,370,000	12,080,000
補助金	340,170,000	340,170,000	0
資産運用収入	130,000,000	125,000,000	5,000,000
事業収入	16,220,000	16,250,000	△ 30,000
雑収入	29,330,000	17,030,000	12,300,000
帰属収入計	1,737,220,000	1,645,090,000	92,130,000
基本金組入額	△197,000,000	△196,000,000	△ 1,000,000
消費収入の部合計	1,540,220,000	1,449,090,000	91,130,000

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増(△)減
人件費	976,040,000	913,390,000	62,650,000
教育研究経費	531,600,000	480,720,000	50,880,000
管理経費	83,540,000	88,680,000	△ 5,140,000
借入金等利息	20,160,000	21,560,000	△ 1,400,000
予備費	30,000,000	30,000,000	0
消費支出の部合計	1,641,340,000	1,534,350,000	106,990,000
当年度消費支出超過額	101,120,000	85,260,000	—
前年度繰越消費収入超過額	436,950,000	436,490,000	—
翌年度繰越消費収入超過額	335,830,000	351,230,000	—

いては、消耗品費及び光熱水費について所要増を推算するとともに、所要の修繕費を見込んで、前年度比5088万円増の5億3160万円を計上。

3. 管理経費……一般的経費及び学生寮に関する経費を内容とするもので、前年度比514万円の減。

・修繕費について

昭和61年度においては、教育研究経費のうちに1億4270万円、管理経費のうちに1300万円、あわせて1億5570万円の修繕費（前年度比3300万円の増）を計上しておりますが、これは年度初めに建物の耐力度測定を行い、この測定の結果を勘案して、建物の全般的な維持管理の方策を定め、必要な補修を計画的に実施しようとするものであります。

4. 借入金等利息……前年度比140万円の減。

5. 予備費……前年度と同額を計上。

・消費支出の部合計

以上により、昭和61年度における消費支出の部合計は、前年度比1億699万円増の16億4134万円となります。

〔消費収支の均衡〕

上記の消費収入の部合計と消費支出の部合計によりますと、昭和61年度における消費収支は、1億112万円の支出超過となりますが、前年度繰越収入超過額が4億3695万円あると見込まれますので、この点を考慮しますと、翌年度への繰越額が3億3583万円あるということになります。

（事務局長 吉野幸夫）

●研究室だより

分析化学教室

教授 森 逸 男



私が昭和42年、分析化学教室（榎 健寿教授）に助教授として就任させて頂きました当時、分析化学研究室は本館1階東側に位置し、丁度現在の学長室が研究室（3室）、大会議、小会議室が分析化学実習室、事務局長室が天秤室（その

後の改装で教授室に変更と同時に小会議室辺りを天秤室）になっておりました。改装間際の実習室、準備室には白い実験台がいくつも並んでいましたが、研究設備は本当に貧弱で、東亜電波製 pH メーター、ポシェロムの分光光度計、直示化学天秤島津製 L 2 型各 1 台と数えるほどの機器のみであったことを覚えております。その後、着々と分析機器の導入が行われるとともに、昭和52年に、新装なった実習研究棟（B棟）の4階東側の一画に引越し、現在に至っております。研究室の面積は前に比べ半減しましたが、南面に運動場、遠くに葛城山、今剛山、二上山、PL塔を眺望でき、毎年8月1日に観望されてきましたPL花火大会の観覧に絶好の席の、明るい研究室です。現在教室員として私の他、藤田芳一講師、

藤田絹子副手、田中毅大学院生、4回生特別実習生（男子3、女子8名）の計15名の大世界帯が、この狭い一研究室に満員電車よろしく押し詰めになっています。毎日、和をモットーに朝早くから夜遅くまで教室員一同、真剣に実験、談笑？に精励しております。私達の研究室では光分析が主体で「キサンテン系誘導体の分析化学への利用」を主テーマに、金属イオン—各種色素—生体関連物質、医薬品間の会合体生成反応と、高感度で新規、選択的な検出及び定量法の開発に藤田講師を中心に全員一丸となつてとりくんでおります。昨年9月、分析化学教室の別室補充に伴い、千熊助教授を迎え、本年度より私の担当は分析化学Ⅱ（2回生）のみとなり、肉体的、精神的負担も従来の比までに減りほっとしております。今後、教室員一同とともに和気あいあい、更に一層教育、研究に従事し、前途有望な学生諸君の教育研究に些かでも貢献できますよう努力したく思います。



前列左から藤田絹子副手、森 逸男教授、藤田芳一講師、田中 毅院生、後列は4回生

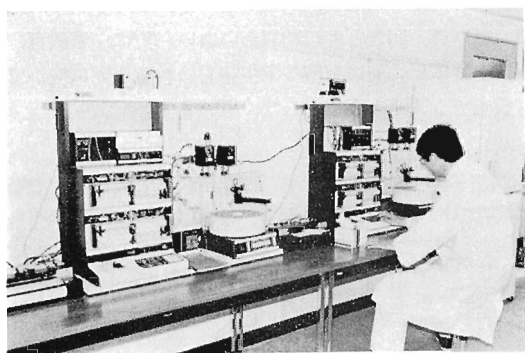
蛋白質構造解析システム

タンパク質および核酸に関する基礎的知識の飛躍的な増大に伴い、発生・老化・生体防御・遺伝現象等が現在次々と分子レベルで理解されつつあります。これらの知識を基礎として遺伝子工学・タンパク質工学・細胞工学などのいわゆるバイオテクノロジーの応用が次第に薬学の分野にも要求されつつあります。たとえば、癌・遺伝的疾患・その他の難病に関する基礎的研究、さらには診断・治療法の開発が急務となっております。今回本学に、上記のタンパク質構造解析システムが設置され、遺伝子工学・タンパク質工学の基礎となるタンパク質化学の研究が可能となりました。タンパク質化学の基礎的方法は、生物体から目的とするタンパク質を抽出・分画・精製し、ついで純化されたタンパク質の構造を調べ、その生体における機能との相関を分子レベルで解明することです。本システムは次の5つの機器から構成されております。

①タンパク質分離用大容量冷却遠心機（日立S C R 20 B型）

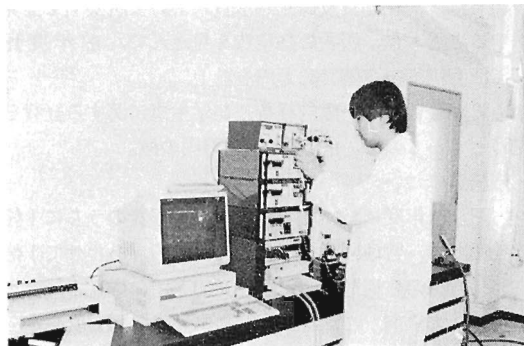
生体からタンパク質を抽出・分離する時に用います。低温下大量に処理する時に有効と思われれます。

②タンパク質分取精製用大容量高速液体クロマトグラフ（ファルマシア F P L C全自動型）



これまでの種々のカラムクロマトグラフィーによるタンパク質の精製は分離が悪く、長時間を要するなど問題点がありましたが、本装置を用いれば短時間で分離が可能であり、不安定な試料の分離にも威力を発揮するはずであります。

③ペプチド分取精製用大容量高速液体クロマトグラフ（ギルソン302全自動型）



純化したタンパク質のアミノ酸配列を決定するためには、まず酵素消化によって断片化し、生じた小ペプチドを分離・精製しなければなりません。この目的にとって本装置はきわめて有効です。

④高速アミノ酸分析計（日立L8500型）

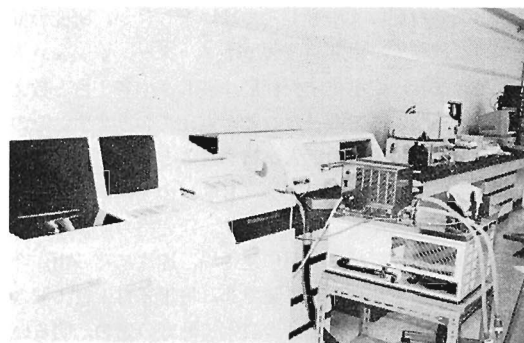
タンパク質または上記の小ペプチドのアミノ酸組成を調べる装置であります。L8500型は最新鋭の機種であり、微量の試料（アミノ酸あたりの検出限界10 p mole）を1時間以内に分析出来ます。また、いわゆる生体アミノ酸の分析にも使用出来ます。この装置は特別付属品として蛍光モニター用自記蛍光分光光度計（日立850型）を含んでおります。高性能の蛍光光度計ですから、上記の目的以外の種々の精密蛍光測定にも利用出来ます。

⑤PTHアミノ酸分析用液体クロマトグラフ（日立655A型）

ペプチドのアミノ酸配列を決定するには、エドマン分析法という方法によりペプチドのN末端からアミノ酸を順次切断し、遊離したアミノ酸をPTHアミノ酸として同定しなければなりません。本装置はこの目的にきわめて有効です。

本システムを構成する種々の機器はそれぞれ単独の装置として多目的に使用することも出来ます。多くの研究者によって有効に利用されることが望まれます。

（池田 潔）



手前から高速アミノ酸分析計、蛍光モニター用自記蛍光光度計、PTHアミノ酸分析用液体クロマトグラフ

西ドイツ留学記 (1)



助教授 石田 寿 昌

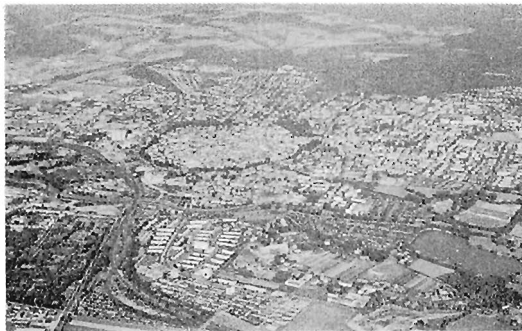
私は1984年4月から翌年7月までの1年4ヶ月の間、アレキサンダー・フォン・フンボルト (AvH) 奨励研究員として西ドイツへ留学する機会を得ました。本学の理解と協力によって、この長期間の留学を認めていただいたことに感謝し、報告の意味も含めて私のドイツ滞在の様子などについて綴ることとします。

私の留学先はベルリン自由大学附属結晶学研究所でしたが、最初の4ヶ月間はドイツ語研究に費やしました。



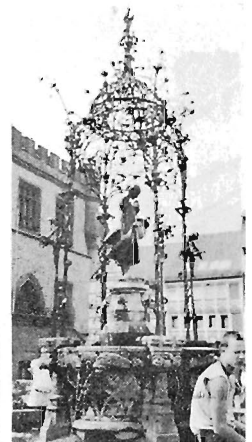
西ドイツの地図

これはドイツ滞在中での日常生活に困らない様にというAvHの配慮からで、ゲッティンゲンにあるゲーテ協会への4月1日からの入学を指示されました。大学時代にドイツ語は習ったものの、既に十数年が経ち、又、ドイツ語会話の練習もしたことのない私にとって好都合であると同時に少々不安でした。3月29日、大阪空港からル

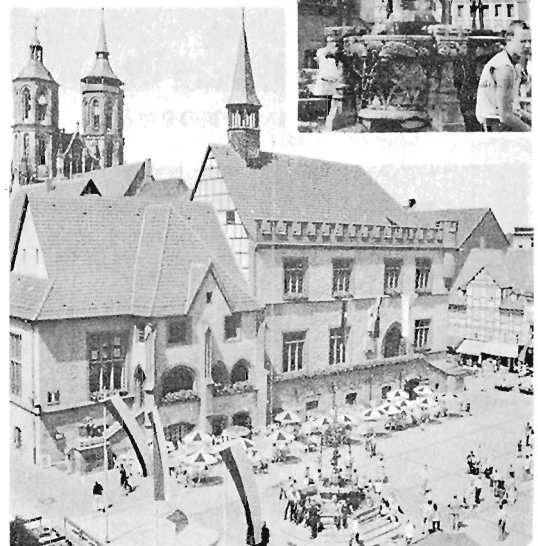


ゲッティンゲン市の全景

(右) ゲッティンゲン市のシンボル「ガチョウ娘」、(下) 旧市役所



中心街、歩行者天国



フトハンザ航空で西ドイツ向け出発しました。長期間の海外出張は初めての経験なので、家族と別れ、1人でゲート内に入った時はなんとも言えない気分になりました。途中、アンカレッジに立ち寄った後、ドイツ時間で30日の早朝、霧深いフランクフルト空港に無事到着しました。案内板と下手な英語を頼りに中央駅まで行き、そこから国鉄に乗って最初の目的地ゲッテンゲンへ向かいました。ドイツの鉄道は大変分かりやすく、乗り込んだ車室にはこの列車名、行き先、停車駅とその到着時間を書いた小さなパンフレットが置いてあり、随分助かりました。それを頼りに、昼過ぎゲッテンゲンに着くことができました。

ここでゲッテンゲンについて少し紹介します。この町はハンブルグとフランクフルト（普通はアムマインをつける）のほぼ中間に位置し、ハインベルグ（ゲッテンゲンの森と言われている）という南北に走る丘陵の中腹から西へひろがる、人口約12万人の都市です。ここにGeorg Augustと名付けられた大学を中心として、マックス・プランク研究所が7つ、いくつかの小規模な工業があり、学生数が市の人口の十数パーセントを占め、ドイツで“Universität Stadt”と呼ばれる大学都市の1つ

に数えられています。本によると、この地域は昔、アルペナーバルト海やハルトツォーハイデといった街道筋にあっていたため、古くから商人らが住んでいたが、1212年に都市としての権利が認められ、城壁を築き、市の立つ広場が設けられたということです。



ゲーテ協会が使用している
Nansen-Haus

町はグリム童話の「ガチョウ娘」の像と旧市役所のある広場を中心に広がり、16～18世紀頃の古い建物も多く残っています。半日も歩けば主な所を見ることができる小さな町です。ゲーテ協会は山手の小高い丘の所にあります。Nansen-Hausという古い建物を町から貸りて、外国人のための



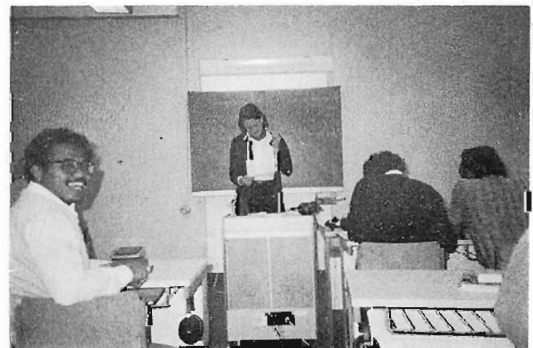
16世紀頃の古い木骨組の家並み



ドイツ語研修を受けている日本人



ゲーテ協会と入学案内のパンフレット



授業風景、正面は教師の Frau Brawn



クラスメート

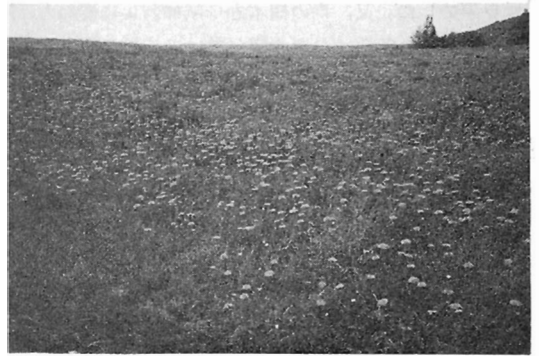


マックスプランク生物医学研究所

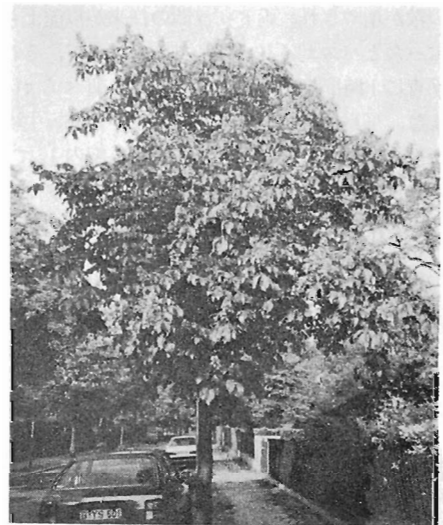
ドイツ語研修に使用しています。周囲を広い公園に囲まれ、申し分のない環境にありました。又、近くには広大な森があり、山歩きコースの歩道も整備されていました。しかし、このような良い環境とは対照的に、天候は不順で、4月中頃までに何回か大雪が降ったのには驚きました。

私は基礎ドイツ語 (Grundstufe I, II, III) を4ヶ月間で習得するコースに入学しました。クラス人数は20名で、そのうち AvH 研究員は6名、残りは全員 DAAD (ドイツ学術交流会) 研究員として諸外国から留学に来た人達でした。同じ環境の人達ばかり、又同年配の人も多かったことで、すぐにお互い知り合いになりました。4月ということもあって、日本からも多くの学生や会社員の方がドイツ語を学ぶためこの町に来られていました (約26名)。建物内には寮も完備されていて、隣の教室へ毎日、十数年前に味わった学生気分で、授業を受けに通いました。私にとって、それは日本人共通のことと思うのですが、授業で習うドイツ語の文法や文章の読解は極めて簡単な内容でしたが、それを教える教師の話し言葉を聞きとるのが大変でした。このことは欧米諸国から来ている人達と対症的なことでした。

土、日曜日は休日で、市内や公園を散歩して過ごしま



野原一面に咲いているタンポポ



数日間で花が咲き、若葉に変わった木

した。1人住まいの生活にも慣れてきた4月末には、天候も晴天の日が続く夏型に変わり、種々の草木が一斉に花を咲かせ、公園全体を埋め尽くす様に咲くタンポポの花



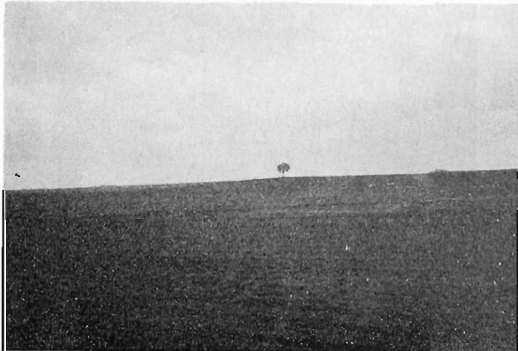
教室旅行で訪れた東ドイツ、アイゼナッハ、エルフルトおよびワイマールの地図

は見事でした。又、森の樹木も一気に若葉に変わり、その長く厳しい冬をはね返す様な勢いの成長の早さには感動しました。

5月5日から2泊3日の教室旅行があり、私達は東ドイツ南部の古い町、アイゼナッハ、エルフルト、ワイマールの3つの町を訪れました。東西両ドイツ間の境界がゲッテンゲンの南東約20kmのところを通過しています。そこでは平凡な田舎の道や畑が二重三重の鉄条網により断たれ、約1kmおきに回りの景色に不釣り合いな監視塔がそびえ立っていました。また、境界線には地雷が敷せてあると聞き不気味な、それでいて身の引き締まる感じを覚えました。最近結ばれた条約により、国境の通行できる門の数が増やされ、両ドイツ間の往來が以前より大分楽になったとバスガイドは話していましたが、それでも入国検査に1時間位かけて、バスの中を調べられました。また、写真撮影は禁止されています。旅行中は東ドイツの役人(バスの中へ乗り込み市内を案内してくれる)の監視下にありましたが、初めて見る東ドイツの、西ドイツとは少し異なる風景は興味深いものでした。特



ゲーテとシラーの像の前で(ワイマール)



見渡す限り一面に植えられた麦畑



捕虜収容所入口の掲示板



生体解剖が行われた実験台



バッハの生家(アイゼナッハ)

に、共同農業経営のため、境界線のないなだらかに続く広大な土地に植えられた見渡す限りの麦畑壮観ながめでした。音楽家や文豪の緑りの町を訪れた後、エルフルトに近い、第2次大戦中使用された捕虜収容所を見学し、戦争の悲鬱さを痛感しました。旅行の最後の夕方、友人とディスコへ出かけた時、そこには沢山の地元の人が来ていましたが、私達を見ると集まって来て、西側諸

国、特に日本のことについていろいろ質問されたのには少し驚きました。

教師の話す言葉もようやく分かるようになった6、7月は、梅雨のない爽やかな気候も手伝って、楽しい期間でした。宿題は毎日沢山出ますが、それを済ませたあと、ランニングや散歩をするため公園や森へ出かけました。又、週末にはグリム童話で有名なハーメルンやカッセル

ル、ゴスラー、ツェレ、ハンミュンデンなどの近隣の古い町を訪れました。

7月末にはドイツ語研修総決算の意味で試験を受けることになりました。試験は文法、読解力、作文、聞き取り、会話の順で行われましたが、私には聞き取りと会話がやはり難しく、判定結果は可(60~70点)でした。私達のようなAvHと異なり、DAADの人達はこの試験を高得点で合格しないと目的とする大学への入学が難しくなるため、真剣に取り組んでいました。卒業式のあとお別れパーティーを盛大にしてもらい、楽しく過ごしたゲッティングエンをあとに目的地西ベルリンへ向かいました。ゲッテ協会での4ヶ月間に多くの分野のちがった内外の人達と知り合いになれたことは、最初必要ないと考えていたドイツ語研修とは別の意味で、有意義な期間であったと思っています。

(以下次号)



▲ゲッティングエン郊外の30km徒歩旅行

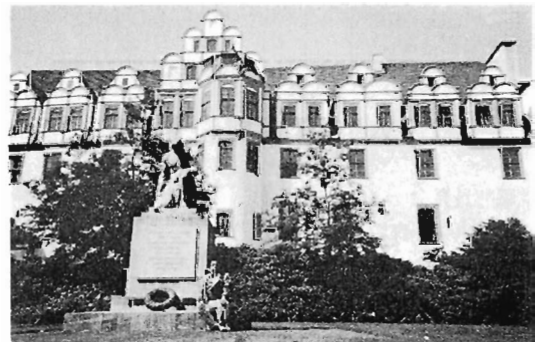
◀ゲッティングエンの森の中の散歩道



ウィルヘルムスヘーエ (カッセル)



*笛吹きネズミ取り男。の伝説があるハーメルン



ツェレにある美しい城

学位授与

〔博士〕

中元 安雄 薬学博士 (61.2.12)
エマルション製剤による抗生物質のリンハ
移行性に関する基礎的研究(名城大学より)

〔修士〕 (61.3.20)

三原 秀悟 塩基性薬物の徐放性製剤の開発—水溶性高
分子(アルギン酸Na, CMC—Na 及び
Carbopol)と塩基性薬物(塩酸イミプラミ
ン及び塩酸クロルプロマジン)による凝集
体からの薬物の溶出と吸収—

北浦 一郎 サリチル酸の経皮吸収におよぼす Hyalu-
ronidase および Polyoxyethylene Lauryl
Ether の影響ならびにその作用機構に関す
る研究

井原さみ子 ラット腎カテプシンBの精製とその生化学
的性質に関する研究

松岡 秀仁 腎不活性型カリクレインの活性化酵素に関
する研究

杉原 句美 シスプラチンの腎障害に対するラジカス
カベンジャーの影響

吉田 明子 ウサギ腎皮質ミトコンドリアの脂質過酸化
に対する水銀化合物の影響

高橋 千佳 透析患者血液ろ過物から単離した尿毒症ペ
プチドの化学的性状

森脇 将光 オットセイ骨格筋中の降圧作用物質に関す
る研究

川辺 博司 ハロゲン化フルオレセイン誘導体の分析化
学への利用

越山 陽三 ガレイン誘導体の分析化学への利用研究

上市 勝久 7-メチルグアニン誘導体とトリプトファン
との相互作用研究

三木 益生 α , β -不飽和ケトンシアノホスフェート
の反応と有機合成への応用に関する研究

人事異動

就職部長発令 (61. 4. 1)
森坂 勝昭(教授)

図書館長発令 (61. 4. 1)
水谷 泰久(教授)

寮監発令 (61. 4. 1)
森下 利明(教授)

研究委員長発令 (61. 4. 1)

栗原 拓史(教授)

助教授発令 (61. 4. 1)

中元 安雄(薬剤学)

助手発令 (61. 4. 1)

岩本 洋子(薬剤学)

尹 康子(薬品物理化学)

斎藤友希子(製剤学)

米田 龍司(薬品製造学・新採用)

熊本 和正(保健体育・新採用)

島 厚志(生物化学・新採用)

高橋 千佳(有機薬化学・新採用)

副手発令 (61. 4. 1)

池田 悦子(衛生化学・新採用)

井尻 温代(薬品化学・新採用)

植野 容子(放射薬品学・新採用)

成 好江(薬品物理化学・新採用)

泰松 明子(RI・新採用)

巽 久子(薬剤学・新採用)

團上美穂代(MASS・新採用)

畠山 容子(薬剤学・新採用)

藤木 陵子(有機薬化学・新採用)

銘田 美樹(生化学・新採用)

係長発令 (61. 1. 1)

神田 吉秋(学生課)

事務職員発令 (61. 4. 1)

高橋 嘉明(学生課・新採用)

手島 尚(教務課・新採用)

配置換発令 (61. 4. 1)

杉田 勝美(資料室長 学生課長より)

高橋 正好(学生課長補佐 教務課係長よ
り)

兼務発令 (61. 4. 1)

森本 武司(図書課長)

嘱託発令 (61. 4. 1)

川野 タツ(教授)

森 かめ代(庶務課係長)

上野末太郎(守衛)

川西マサ子(用務員)

退任 (61. 3. 31)

田中 千秋 教授・就職部長
(任期满了につき)

森 逸男 教授・図書館長
(任期满了につき)

吉田 巖吉 教授・寮監
(任期满了につき)

池田 潔 教授・研究委員長
(任期満了につき)

退職 (61. 2. 28)

伊藤 美穂 副手(薬品物理化学)

脇田多恵子 副手(薬品製造学)

(61. 3. 31)

武枝 敏之 助手(薬剤学)

新宅 幸憲 助手(保健体育)

近藤 裕一 助手(R I)

中尾ますみ 助手(放射薬品学)

山根 敏子 助手(製剤学)

山本 恭子 助手(有機薬化学)

上野 友子 副手(衛生化学)

武田 一代 副手(M A S S)

松岡 良美 副手(有機薬化学)

松田美奈子 副手(薬品化学)

森 かめ代 庶務課係長

川西マサ子 用務員

海外留学 (61. 4. 1~62. 3. 31)

加藤 義春助教授

留学先 ドイツ連邦共和国フライブルグ
大学歴史学研究室



3月20日(木)第33回卒業式ならびに第10回大学院修了式(学部卒業生248名,大学院修了生12名)が挙げられた。

本学の英名変更

本学の英名は従来Osaka College of Pharmacyを用いていたが、大学院を設置する大学としてのより適切な名称であるOsaka University of Pharmaceutical Sciencesに変更された。そこで学報も下のように本号からこの名称にあらためた。

Osaka University of Pharmaceutical Sciences

奨学生状況(1986.1.1現在)

1. 日本育英会

	1年	2年	3年	4年	計	院生	計
第1種	31	34	—	—	65	9	181
第2種	26	9	—	—	35		
特別	—	—	27	16	43		
一般	—	—	17	12	29		
計	57	43	44	28	172		

※日本育英会の奨学金は全て貸与

○第1種・第2種 (31,000円(自宅通学者)
41,000円(自宅外通学者))

第2種は利子付

○特別 (29,000円(自宅通学者)
39,000円(自宅外通学者))

一般 27,000円

○大学院生は自宅・自宅外通学を問わず一律65,000円の貸与

2. その他の育英会・奨学会

	1年	2年	3年	4年	院生	計	月額	貸* 給
大阪府育英会	5	4	4	4		17	17,000	貸
東大阪市育英会				1		1	8,000	貸
岡山県育英会		1				1	18,000	貸
山口県奨学会			1			1	25,000	貸
森下仁丹奨学会	1	1	2			4	30,000	給
小野奨学会	1					1	15,000	給
佐藤奨学会	1					1	17,000	給
本学父兄会	4	3	2	1	2	12	10,000	給

*貸は貸与で、卒業後長期分割返済する。
給は給与で、返済を要しない。

◎薬剤師国家試験

第70回(61.4.2~4.3施行,61.4.26発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
277名	188名	67.87%	62.33%
(246名)	(177名)	(71.95%)	(67.52%)

※括弧内は、新卒者(昭和161年3月卒業)の数値を示す。

◎臨床検査技師国家試験

第30回(60.3.10施行,61.4.30発表)

受験者	合格者	合格率	全国平均
22名	3名	13.6%	57.5%

昭和61年度

各部・各委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(昭和61年4月1日現在)

教務部	◎藤田 直(教授)
池田 潔(教授)	中元 安雄(助教授)
有本 正生(講師)	
学生部	◎太田 長世(教授)
望月伸三郎(教授)	稲森 善彦(助教授)
石田 寿昌(助教授)	
就職部	◎森坂 勝昭(教授)
森本 史郎(教授)	田中 千秋(教授)
沼田 敦(教授)	
図書館	◎水谷 泰久(教授)
石田 寿昌(助教授)	坂田 勝治(助教授)
学生寮	◎森下 利明(教授)
太田 長世(教授)	馬場きみ江(助教授)
濱中久美子(講師)	
薬草園	◎小澤 貢(教授)
太田 長世(教授)	馬場きみ江(助教授)
三野 芳紀(講師)	
実験動物センター	◎森本 史郎(教授)
森坂 勝昭(教授)	酒井 清(教授)
藤田 直(教授)	玄番 宗一(助教授)
稲森 善彦(助教授)	中元 安雄(助教授)
安田 正秀(講師)	
広報委員会	◎水谷 泰久(教授)
稲森 善彦(助教授)	有本 正生(講師)
森本 武司(庶務課長)	杉田 勝美(資料室長)
研究委員会	◎栗原 拓史(教授)
玄番 宗一(助教授)	石田 寿昌(助教授)
排水処理委員会	◎千熊 正彦(助教授)
酒井 清(教授)	水谷 泰久(教授)
池田 潔(教授)	
R I 運営委員会	◎田中 千秋(教授)
森坂 勝昭(教授)	酒井 清(教授)
井上 正敏(教授)	森本 史郎(教授)
沼田 敦(教授)	玄番 宗一(助教授)
木村捷二郎(講師)	
企画委員会	◎藤田 榮一(学長)
山口 秀夫(教授)	太田 長世(教授)
森坂 勝昭(教授)	井上 正敏(教授)

森本 史郎(教授)	水谷 泰久(教授)
沼田 敦(教授)	小澤 貢(教授)
曾根 節子(助教授)	
卒業教育委員会	◎藤田 榮一(学長)
田中 千秋(教授)	森 逸男(教授)
栗原 拓史(教授)	
大学史資料委員会	◎曾根 節子(助教授)
太田 長世(教授)	森下 利明(教授)
加藤 義春(助教授)	馬場きみ江(助教授)
吉野 幸夫(事務局長)	森本 武司(庶務課長)
杉田 勝美(資料室長)	

前期行事予定表

[S61年]	
4月1日(火)	春季休業
7日(月)	
2日(水)	第70回薬剤師国家試験
3日(木)	
9日(水)	入学式(学部・大学院)
11日(金)	新入生ガイダンス アドバイザー面談
12日(土)	新入生健康診断
14日(月)	授業開始
17日(木)	レントゲン検診(2~4年次生・院生・教職員女子)
23日(水)	レントゲン検診(同上 男子)
5月9日(金)	創立記念日(休業日)
10日(土)	学友会新入生歓迎会(卯月祭)
13日(火)	健康診断(2~4年次生・院生女子)
14日(水)	健康診断(同上 男子)
19日(月)	定期試験(4年次留年生)
24日(土)	
6月30日(月)	再試験(4年次留年生)
7月4日(金)	
11日(金)	夏季休業
9月10日(水)	
7月21日(月)	卒業者発表(4年次留年生)
9月11日(木)	授業再開
17日(水)	前期授業終了
19日(金)	前期定期試験(1~4年次生)
30日(火)	

教員研究業績一覽(1985年)

(1985.1.1~12.31)

1. 著書, 紀要, 総説, 解説等

著者	題目	書名または掲載誌(出版社)
上井 勝, 他	The Double Beta Decay	Neutrino Mass and Low Energy Weak Interactions, p. 70 (World Sci. Pub.)
藤田榮一	第Ⅲ章 3節ジテルバン	天然物化学(南江堂)
小澤 貢	第Ⅷ章 γ -ピロン類, 第Ⅺ章 α -ピロン類	天然物化学(南江堂)
田中千秋	第2部 放射線保健学 6. 放射線生物学 7. 放射線管理と安全取扱い 8. 放射性同位体による診断と治療—放射性医薬品	新放射化学及放射線保健学(廣川書店)
森本史郎	第1章 総論, 第3章 末梢神経系に作用する薬物, 第4章 ホルモン, 第5章 循環器系に作用する薬物, 第8章 利尿薬, 第12章 抗癌性腫瘍薬, 第14章 ビタミン, 第15章 抗感染薬	薬物学(日本工業技術連盟)
森本 洋, 森坂勝昭	ポリアクリル酸ゲルの製剤への適用性	最近の製剤技術とその応用Ⅱ(医薬ジャーナル社) p. 113
望月伸三郎, 新宅幸憲	薬科大学学生の体力 —体育指導の基礎研究(V)	ばいでいあ, 9, 101(1985)
坂田勝治	The Dualistic Perspectives : A Note on <i>Dangling Man</i> (III)	ばいでいあ, 9, 3 (1985)
濱中久美子	ル・ファール『断頭台下の最後の女』における „Angst” について	兩次大戦間の文学(武田昌一教授退職記念論集), p. 76 (1985)
藤田榮一	オクテット: 生物活性物質の有機化学	フェルマシア, 21(3), 197 (1985)
藤田榮一	Recent Progress on Asymmetric Synthesis Utilizing C 4 Chiral Thiazolidine-2-thione	Lectures in Heterocyclic Chemistry VIII 91 (1985)
千熊正彦, 他	Mucoregulator と mucolubricant	フェルマシア, 21, 139 (1985)
千熊正彦, 他	薬物療法法の進歩, COLD の治療 ステロイド薬	現代医療, 17, 751 (1985)
千熊正彦, 他	気管支喘息治療に用いられる薬物ステロイド薬	アレルギーの臨床, 5, 612 (1985)
千熊正彦, 他	9 ステロイド薬	最近の薬物療法 5 感染症・COLD (現代医療社)

著 者	題 目	書名または掲載誌(出版社)
大桃善朗, 他	Preparation and biodistribution of ^{67}Ga -labeled fibrinogen conjugated with a water-soluble polymer containing deferoxamine, a potential thrombus imaging agent.	Radiopharmaceuticals and Labeled Compounds, Vienna, International Atomic Energy Agency, 1985, p. 471
井上晴嗣, 他	昆虫のチトクロムCの変態に伴う変化と分子進化	蛋白質核酸酵素, 30 (12), 1301 (1985)
藤田 直	ビタミンEとミトコンドリア	ビタミンE—基礎と臨床—p. 116 (医歯薬出版)
森本史郎	利尿降圧薬の薬理作用	薬局, 36 (2), 179 (1985)
森本一洋	高分子薬物の鼻腔内吸収	医学のあゆみ, 134 (8), 524(1985)

2 一般学術論文

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
望月伸三郎	高校生の体育授業時における障害	大阪体育学研究, 23 (4), 167 (1985)
吉田嶺吉	Right regular bands with semilattice transversals	Proc. of 8th Symposium on Semigroups, Shimane Univ., 1984, 26
吉田嶺吉	On E-disjunctive inverse semigroups	Acta Scientiarum Mathematicarum (Hungary) 49, 49 (1985)
土井 勝, 他	Role of the nucleon recoil term in the neutrinoless double beta decay	Phys. Lett., 158B, 164 (1985)
藤田榮一, 他	Chemistry of 1,3-Oxathianes : Synthesis and Conformation of 2-Substituted 1,3 Oxathianes	J. Org. Chem., 50(5), 657 (1985)
藤田榮一, 他	Chemistry of 1,3-Oxathianes : Reactivity of 2 Hetero-substituted 1,3-Oxathianes towards <i>sec</i> Butyllithium and the Reaction of 2-(Trimethylsilyl)-1,3 oxathianyl Anion with Electrophiles	J. Org. Chem., 50(5), 662 (1985)
藤田榮一, 他	Terpenoids. XLVIII. New Diterpenoids from <i>Rabdosia shikokiana</i> var. <i>occidentalis</i>	Chem. Pharm. Bull., 33 (3), 1029 (1985)
藤田榮一, 他	Terpenoids. XLIX. Reactions of Shikoccin : Oxidation, Catalytic Reduction, and Conversion into the Abietane Skeleton	Chem. Pharm. Bull., 33 (3), 1034 (1985)
藤田榮一, 他	Terpenoids. L. Antitumor Activity of Diterpenoids from <i>Rabdosia shikokiana</i> var. <i>occidentalis</i>	Chem. Pharm. Bull., 33 (3), 1038 (1985)
藤田榮一, 他	Highly Selective Nonenzymatic Chiral Induction into 3-Methylglutaric Acid and <i>cis</i> -4-Cyclohexen-1,2-ylene bis(acetic acid) Utilizing a Functional Five-Membered Heterocycle 4(R) MCTT	J. Org. Chem., 50(21), 4072 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
藤田榮一, 他	Investigation of New Chiral 1,3-Oxazolidine 2-thiones : Analytical Separation and Optical Resolution of Racemic Carboxylic Acids and Amino Acids	J. Chem. Soc. Trans., I (11), 2361 (1985)
藤田榮一, 他	Vinylodonium Salts : Their Stereospecific Synthesis and Reactions As the Activated Vinyl Halides	Tetrahedron Lett., 26 (19), 2351 (1985)
藤田榮一, 他	Hard Acid and Soft Nucleophile Systems 10. The Mechanistic Study for Debromination of <i>para</i> -Bromoanisole with Aluminum Chloride and Ethanethiol	Bull. Inst. Chem. Res., Kyoto Univ., 63(2), 47 (1985)
藤田榮一, 他	Use of Chiral 1,3-Oxazolidine-2-thiones in the Diastereo selective Synthesis of Aldols	J. Chem. Soc., Chem. Commun., (20), 1418 (1985)
藤田榮一, 他	A Facile Chiral Synthesis of (+)-Prelog-Djerassi Lactonic Acid Methyl Ester using Five-membered Heterocyclic Chiral Reagents	J. Chem. Soc., Chem. Commun., (20), 1419 (1985)
有本正生, 山口秀夫, 他	Iodine(III)-Mediated Allylation of Aromatic Compounds and Alcohols Using Allylmetal (Group IVb) Compounds	Chem. Pharm. Bull., 33 (1), 41 (1985)
有本正生, 山口秀夫, 他	Iodine(III) Mediated Intramolecular Cyclization of Hydroxy Allylsilanes : Synthesis of 5-or 6 Membered β -Methylene Cyclic Ethers	Chem. Pharm. Bull., 33 (3), 989 (1985)
沼田 敦, 山口秀夫, 保木本和子, 大谷雅子, 他	Host-Plant Selection by the Yellow Butterfly Larvae, <i>Eurema hecabe mandarina</i> (Lepidoptera : Pieridae) : Attractants and Arrestants	Appl. Ent. Zool., 20, 314 (1985)
米田龍司, 寺田達也, 春沢信哉, 栗原拓史	Studies on Indenopyridine Derivatives and Related Compounds. IV. Synthesis and Stereochemistry of Ethyl 9,9 Dimethyl 1,2,3,9a tetrahydro-9H-indeno [2,1- <i>b</i>]pyridine-3-carboxylate and Its Derivatives	Heterocycles, 23, 557 (1985)
春沢信哉, 三木益生, 平井淳一, 栗原拓史	A New Synthesis of Biaryls	Chem. Pharm. Bull., 33, 899 (1985)
春沢信哉, 三木益生, 米田龍司, 栗原拓史	Allylic Rearrangement of α,β Unsaturated Ketone-Diethyl Phosphorocyanidate Adducts	Chem. Pharm. Bull., 33, 2164 (1985)
米田龍司, 寺田達也, 里田成代, 栗原拓史	Studies On Indenopyridine Derivatives and Related Compounds. V. A Facile Synthesis of Ethyl 9,9-Dimethyl 1,2,3,9a tetrahydro 9H-indeno [2,1- <i>b</i>]pyridine-3-carboxylate	Heterocycles, 23, 2243 (1985)
栗原拓史, 華川美津子, 脇田多恵子, 春沢信哉	Reaction of 3-Acylindoles with Diethyl Phosphorocyanidate A Facile Synthesis of 2-Cyano-3-indoleacetonitriles	Heterocycles, 23, 2221 (1985)
栗原拓史, 河村佳代子, 米田龍司	Studies on Indenopyridine Derivatives and Related Compounds. III. Stereochemistry of 1-Substituted 4,9-Dihydro-9-phenyl-1,2,3,4,4a,9a-hexahydro-9H indeno [2,1- <i>b</i>]pyridines	Chem. Pharm. Bull., 33, 3287 (1985)
三木益生, 脇田多恵子, 春沢信哉, 栗原拓史	Reaction of Methyl Vinyl Ketone Cyanophydrin Phosphate with Aromatic Compounds	Chem. Pharm. Bull., 33, 3558 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
栗原拓史, 川苔英二, 森田隆正, 那須啓子	Ring Transformation of 6H-Cyclopropa[e]pyrazolo[1,5-a]Pyrimidine. VI. Substitution Effect of 6-Substituted 5a-Acetyl-6a-ethoxycarbonyl-5a,6a-dihydro-6H-cyclopropa[e]pyrazolo[1,5-a]pyrimidine-3-carbonitriles	J. Heterocyclic Chem., 22, 780 (1985)
栗原拓史, 勝田真弓, 那須啓子, 井上正敏, 土井光暢	Reaction of Pyrazolo[1,5-a]pyrimidine Derivatives with Nucleophiles. V. X-Ray Determination of the Molecular Structure of a Reaction Product of 6,7-Diethoxycarbonylpyrazolo[1,5-a]pyrimidine-3-carbonitrile with N methylindole	Chem. Pharm. Bull., 33, 5551 (1985)
三野芳紀, 筒井聡美, 太田長世	薬用植物中のイヌリンに関する研究(第3報) 高速ゲルクロマトグラフィーによる薬用植物中のイヌリンの検出—イヌリン含量とこの分子量分布の季節変化	生薬学雑誌, 39(1), 63 (1985)
三野芳紀, 筒井聡美, 太田長世	薬用植物中のイヌリンに関する研究(第4報) アセチル化を利用したイヌリンの逆相高速液体クロマトグラフィー—薬用植物中のイヌリンの分子量分布	生薬学雑誌, 39(2), 154 (1985)
三野芳紀, 他	Unusual Configuration and Low Iron-Uptake Ability of Isomugineic Acid Produced from Chlorotic Gramineous Plants	J. Am. Chem. Soc., 107(16), 4667 (1985)
三野芳紀, 筒井聡美, 太田長世	Separation of Acetylated Inulin by Reversed-Phase High Performance Liquid Chromatography	Chem. Pharm. Bull. 33(8), 3503
馬場さみ江, 竹内一男, 濱崎富美代, 小澤 貢	Three New Flavans from the Root of <i>Daphne odora</i> Thunb.	Chem. Pharm. Bull., 33(1), 416 (1985)
馬場さみ江, 松山容子, 福本雅代, 小澤 貢	2-Hydroxy-3,4-dimethyl-2-buten-4-olide as a Flavouring Component of Japanese Bai Zhi	Planta Med., 1985(1), 64 (1985)
馬場さみ江, 小澤 貢, 他	Inhibition of the formation of 5-hydroxy-6,8,11,14-eicosatetraenoic acid from arachidonic acid in polymorphonuclear leukocytes by various coumarins	Biochim. Biophys. Acta, 834, 224 (1985)
馬場さみ江, 小澤 貢, 他	ラット腹腔内多核白血球のアラキドン酸代謝系に対する和漢薬成分の影響	和漢医薬学会誌, 2(1), 238 (1985)
馬場さみ江, 濱崎富美代, 多幡祐子, 小澤 貢, 他	中国産蛇床子の成分研究	生薬学雑誌, 39(4), 282 (1985)
土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 他	X Ray Diffraction Studies of Enkephalins. II. Crystal Structure of Boc-(4-Bromo)Phe ⁴ , Met ⁵ -enkephalin	Peptide Chemistry, 1984, 203 (1985)
石田寿昌, 井上正敏, 他	A Stacking Interaction between Thymine and Phenyl Rings: Crystal Structure of 3'-O Benzoylthymidine Monohydrate	Chem. Pharm. Bull., 33(2), 455 (1985)
土井光暢, 安田信子, 石田寿昌, 井上正敏	Physicochemical Studies of Medicinal Drug Polymorphism. I. Structural Studies of Bromodiethylacetylurea by Thermal and X Ray Crystal Analyses	Chem. Pharm. Bull., 33(6), 2183 (1985)
石田寿昌, 松井みゆき, 井上正敏, 平野 弘, 山下まゆみ, 杉山和明, 他	Ring Stacking Interaction on The Thiamin Tryptophan Systems	J. Am. Chem. Soc., 107, 3305 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 井上正敏, 他	Diels-Alder Adducts of Glycosylfurans with Maleimide. Application of X Ray Diffraction and CD Spectra to The Determination of Their Stereochemistry	Carbohydr. Res., 141 , 1 (1985)
土井光暢, 井上正敏, 他	On The Crystal Structure of The Diels Alder Adduct of The Hydrogenated Lactams Obtained by Reactive Photocyclization of N-Cyclohex-1-Enylbenzamide	Heterocycles, 23 , 1215 (1985)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 越山陽三	Color Reaction between Keto Acid or Hydroxy Acid and 9-(2' Carboxyphenyl)-4, 5-dibromo 2, 3, 7-tri-hydroxy-6-fluorone Aluminum(III) Complex and Its Application to the Determination of β Phenylpyruvic Acid	Chem. Pharm. Bull., 33 , 242 (1985)
森 逸男, 藤田芳一, 藤田絹子, 北野尚子, 川辺博司, 越山陽三, 田中 毅, 宮脇双葉子, 永尾有里, 永井健一	Determination of Penicillins with Mercurochrome	Chem. Pharm. Bull., 33 , 4629 (1985)
藤田芳一, 森 逸男, 藤田絹子, 北野尚子, 田中 毅	A Color Reaction of 1,2 Diphenols Based on Colored Complex Formation with Phenylfluorone and Iron(III) and Its Application to the Assay of Catecholamines in Pharmaceutical Preparations	Chem. Pharm. Bull., 33 , 5385 (1985)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 川辺博司, 越山陽三	The Spectrophotometric Determination of Phosphorus with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Iron(III)	Bull. Chem. Soc. Jpn., 58 , 815 (1985)
藤田芳一, 森 逸男, 北野尚子, 藤田絹子	Simple Spectrophotometric Determination of Long-Chain Quaternary Ammonium Salts with <i>o</i> Hydroxy-hydroquinonephthalein and Manganese(II)	Anal. Sci., 1 , 175 (1985)
森 逸男, 藤田芳一, 川辺博司, 藤田絹子, 越山陽三, 田中 毅, 川戸順之	Determination of Titanium(IV) with <i>o</i> -Hydroxyhydroquinonephthalein and Hydrogen Peroxide	Anal. Sci., 1 , 429 (1985)
森 逸男, 藤田芳一, 川辺博司, 藤田絹子	2, 4, 5, 7-テトラクロロフルオレセインとパラジウム(II)による塩酸パバペリンの吸光光度定量	分析化学, 34 , 648 (1985)
千熊正彦, 他	Peroxidase-like activity of anion exchange resins modified with metalloporphyrins	J. Pharm. Dyn., 8 , s-15 (1985)
千熊正彦, 他	Determination of hydrogen peroxide by use of an anion-exchange resins modified with manganese tetrakis(sulfophenyl)porphine as a mimesis of peroxidase	Anal. Chim. Acta, 172 , 285 (1985)
千熊正彦, 他	Separation and determination of Se(IV) in environmental water samples by an anion-exchange resin modified with bismuthiol-II and diamionaphthalene fluorophotometry	Fresenius' Z. Anal. Chem., 321 , 56 (1985)
千熊正彦, 他	A chelate forming resin prepared from a sulfonated dithizone and an anion-exchange resin and its application to collection of heavy metal ions	Reactive Polymers, 3 , 163 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
下熊正彦, 他	血清中テオフィリン濃度測定におけるモノクロナル抗体を用いた蛍光偏光免疫測定法の臨床的評価	薬理と臨床, 13, 4509 (1985)
大桃善朗, 田中千秋, 他	[125 I]Radioiodinated metaraminol: a new Platelet-specific labeling agent	Eur. J. Nucl. Med., 10, 269(1985)
大桃善朗, 田中千秋, 他	In Vivo Kinetics and Thrombus Accumulation of 67 Ga Labeled Urokinase	Int. J. Nucl. Med. Biol., 12, 47 (1985)
大桃善朗, 他	Effect of DTPA Conjugation on the Antigen Binding Activity and Biodistribution of Monoclonal Antibodies Against α Fetoprotein	J. Nucl. Med., 26, 750 (1985)
松村瑛子, 山本栄子, 川野タツ, 他	A Novel Enzyme " N^{α} Benzylloxycarbonyl Amino Acid Urethane Hydrolase II" from <i>Lactobacillus fermenti</i> 36 ATCC 9338	Chem. Pharm. Bull., 33 (1), 408 (1985)
松村瑛子, 山本栄子, 他	ビリルビンオキシダーゼ及びフェノールオキシダーゼの基質特異性—安息香酸誘導体に対する呈色反応—	薬学雑誌, 105(1), 86 (1985)
松村瑛子, 与茂田 敏, 川野タツ, 他	Purification and Properties of " N^{α} Benzylloxycarbonyl Amino acid Urethane Hydrolase III" from <i>Lactobacillus casei</i> ϵ ATCC 7469	Chem. Pharm. Bull., 33 (4), 1739 (1985)
松村瑛子, 川野タツ, 他	Isolation and Characterization of a Novel Enzyme " N^{α} Benzylloxycarbonyl Amino Acid Urethane Hydrolase" from <i>streptococcus faecalis</i> R ATCC 8043	Agric. Biol. Chem., 49(4), 967 (1985)
松村瑛子, 川野タツ, 他	Substrate Specificity and Stoichiometry of " N^{α} Benzylloxycarbonyl Amino Acid Urethane Hydrolase" from <i>streptococcus faecalis</i> R ATCC 8043	Agric. Biol. Chem., 49(4), 973 (1985)
松村瑛子, 坂口 実, 川野タツ, 他	A Novel Enzyme, N^{α} Benzylloxycarbonyl Amino Acid Urethane Hydrolase IV	Agric. Biol. Chem., 49 (12), 3643 (1985)
稲森善彦, 久保真百合, 森脇将光, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	The Ichthyotoxicity and Coronary Vasodilator Action of Diethylstilbestrol	Chem. Pharm. Bull., 33 (1), 420 (1985)
稲森善彦, 久保真百合, 馬場きみ江, 石田寿昌, 小澤 貢, 他	The Biological Actions of Deoxypodophyllotoxin (Anthricin). I. Physiological Activities and Conformational Analysis of Deoxypodophyllotoxin	Chem. Pharm. Bull., 33 (2), 704 (1985)
稲森善彦, 久保真百合, 安田正秀, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	The Biological Activities of 3, 4-O Iso-propylidene 3, 3', 4, 5'-tetrahydroxystilbene	Chem. Pharm. Bull., 33 (7), 2904 (1985)
久保真百合, 太田長世, 辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Mechanisms of Inhibitory Action of Racemomycin-D on Plant Growth	Chem. Pharm. Bull., 33 (7), 2910 (1985)
稲森善彦, 久保真百合, 森脇将光, 辻坊 裕, 馬場きみ江, 小澤 貢, 他	The Biological Activities of Diethylstilbestrol	Chem. Pharm. Bull., 33 (10), 4478 (1985)
久保真百合, 稲森善彦, 他	<i>Serratia marcescens</i> 及び <i>Pseudomonas aeruginosa</i> に対する Sisomicin, Gentamicin, Cefmenoxime, Ceftizoxime, Cefoperazone 並びに Cefotetan 間の併用に関する細菌学的研究	Jap. J. Antibiotics, 38 (12), 3487 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
辻坊 裕, 他	Nucleotide sequences of the cDNA and an intronless pseudogene for human lactate dehydrogenase-A isozyme	Eur. J. Biochem., 147, 9 (1985)
辻坊 裕, 他	Genomic organization of human lactate dehydrogenase-A gene	Biochem. J., 231, 537 (1985)
小延鑑一, 高野恭子, 田中公和, 他	Middle Molecule Substances in the Hemofiltrate of Dialysis Patients. I. Separation of Peptidic Substances by "hydrophobic" HPLC	Jap. J. Clin. chem., 14(5), 327 (1985)
小延鑑一, 高野恭子, 高橋千佳, 松本知子, 他	Middle Molecule Substances in the Hemofiltrate of Dialysis Patients. II. A Characteristic of Uremic Peptides isolated from Hydrophobic Middle Molecule Fraction	Jap. J. Clin. Chem., 14 (6), 388 (1985)
井上晴嗣, 他	Complete Amino Acid Sequence of Cytochrome <i>c</i> from the Honeybee, <i>Apis mellifera</i> , and Evolutionary Relationship of the Honeybee to Other Insects on the Basis of the Amino Acid Sequence	J. Biochem., 97(3), 947 (1985)
池田 潔, 他	Kinetics of the Hydrolysis of Monodispersed Dihexanoyllecithin Catalyzed by a Cobra (<i>Naja naja atra</i>) Venom Phospholipase A-	J. Biochem., 98(6), 1509 (1985)
藤本陽子, 山本 拓, 庭瀬宣幸, 藤田 直	Effect of Sodium Azide and Sodium Selenite on Prostaglandin Synthesis in Rabbit Kidney Medulla Slices	J. Pharm. Pharmacol., 37, 129 (1985)
藤田 直, 笠谷浩義, 鈴木かおる, 藤本陽子	Comparison of the Effects of Calcium α -Glycerophosphate and Ca^{2+} on Prostaglandin Synthesis in Rabbit Kidney Medulla Slices	Comp. Biochem. Physiol., 80C, 141 (1985)
藤本陽子, 吉田明子, 守沢和也, 上野友子, 藤田 直	Enhancement of Methyl Mercury-Induced Lipid Peroxidation by the Addition of Ascorbic Acid	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol., 49, 267 (1985)
藤本陽子, 宇野秀雄, 加減千賀子, 藤田 直	Effect of Diarachidonin on Prostaglandin E_2 Synthesis in Rabbit Kidney Medulla Slices	Biochem. J., 232, 625 (1985)
岡村啓史, 高岡昌徳, 岩本隆宏, 森本史郎	Renal Inactive Kallikrein as the Possible Origin of Urinary Inactive Kallikrein in the Rat	J. Pharm. Dyn., 8(3), 175 (1985)
岩本隆宏, 高岡昌徳, 大山元一, 森本史郎	Purification and Characterization of Rat Urinary Renin	Biochemistry International, 10(3), 359 (1985)
松村靖夫, 宮脇宣明, 佐々木康人, 森本史郎	Inhibitory Effects of Norepinephrine, Methoxamine, and Phenylephrine on Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices.	J. Pharmacol. Exp. Ther., 233(3), 782 (1985)
松村靖夫, 宮脇宣明, 佐々木康人, 森本史郎	Effects of Alpha-Adrenocceptor Agonist on Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices	J. Pharm. Dyn., 8(6), S-69 (1985)
松村靖夫, 宮脇宣明, 大野行弘, 佐々木康人, 清水利勝, 森本史郎	Effects of Tinoridine on Lipid Peroxidation and Renin Release in the Rat Renin Granule Fraction	J. Pharm. Dyn., 8(7), 532 (1985)

著 者	論 文 題 目	掲 載 誌
宮脇宣明, 松村靖夫, 大野行弘, 森本史郎	Renin Release from Kidney Cortical Slices in Response to Isoproterenol and Glucagon is Decreased in Vitamin E Deficient Rats	Life Sci., 37(10), 923 (1985)
高岡昌徳, 岡村啓史, 栗林義和, 松岡秀仁, 森本史郎	Activation of Urinary Inactive Kallikrein by an Extract from the Rat Kidney Cortex	Life Sci., 37(11), 1015 (1985)
松村靖夫, 佐々木康人, 慎山浩史, 森本史郎	The Calcium Channel Agonist, Bay K 8644, Inhibits Renin Release from Rat Kidney Cortical Slices	Eur. J. Pharmacol., 117, 369 (1985)
堀 光彦, 玄番宗一	Effect of Barium Ion on <i>p</i> -Aminohippurate Transport in Basolateral Membrane Vesicles Isolated from Rat Kidney Cortex	Arch. Int. Pharmacodyn. Ther., 275, 287 (1985)
杉原句美, 橘 明美, 玄番宗一	Evidence for In Vivo Effect of Lithium on <i>p</i> -Aminohippurate Transport in Rat Kidney, Preliminary Study	Jap. J. Pharmacol., 38, 127 (1985)
玄番宗一, 橘 明美, 杉原句美, 堀 光彦, 中島真弓	Inhibitory Effect of Lithium on <i>p</i> -Aminohippurate Transport in Rat Kidney Cortex In Vitro	Renal Physiol., Basel 8, 179 (1985)
森本一洋, 森坂勝昭, 他	Enhancement of nasal absorption of insulin and calcitonin using polyacrylic acid gel	J. Pharm. Pharmacol., 37 (2), 134 (1985)
森本一洋, 岩本洋子, 片島隆雄, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭	Absorption and bioavailability of diclofenac after rectal administration of diclofenac-Na gel preparation in rats and man	Pharm. Res., 4(7), 162 (1985)
森本一洋, 野口盛一, 森坂勝昭, 他	インドメタシン連日投与ラットにおける小腸の形態学的変化とインドメタシン, フェノール・レッド, セファレキシンおよびセフラジンの小腸吸収	薬剤学, 45(3), 234 (1985)
森本一洋, 赤土博章, 森坂勝昭, 他	Effect of non-ionic surfactants in a polyacrylic acid gel base on the rectal absorption of [Asu ^{1,7}]-eel calcitonin in rats	J. Pharm. Pharmacol., 37 (10), 759 (1985)
神谷秀和, 森本一洋, 森坂勝昭	Dissolution behavior and bioavailability of cimetidine-HCl (cimetidine monohydrochloride monohydrate)	Int. J. Pharm., 26(1-2), 197 (1985)
森本一洋, 三原秀悟, 武枝敏之, 中元安雄, 森坂勝昭, 他	Effect of polyacrylic acid gel on the rectal absorption of [Asu ^{1,7}]-eel calcitonin in rats	J. Pharm. Dyn., 8((6), s 132 (1985)
酒井 清, 他	糖誘導体の合成的研究 II. グルクロン酸抱合体の合成 (その I). サリチル酸グルクロニドの合成	海技大学校研究報告, 28, 73 (1985)